

病虫害発生予察注意報 第 2 号

病虫害名：コムギ黄さび病

1 発生予想 県下の小麦産地全域で発生が増加する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

3 根拠

- (1) 本年 5 月上旬にコムギ黄さび病の発生が北信地方の一部で確認され、5 月下旬にかけて広く発生が確認されるとともに、地域によっては急激に発生が増加し、発生程度の高いほ場がみられている。
- (2) また、5 月中旬に東信地方、5 月下旬に中信地方でも本病の発生が確認され、中信地方では地域によって発生程度の高いほ場がみられている(表 1)。
- (3) 本病の麦での伝染は孢子(夏孢子)による空気伝染で、伝染は非常に早く広範囲にわたるため、急激に発生が増加することが予想される。
- (4) 気象庁・海洋気象部発表(5 月 26 日)の 1 か月予報によると、期間の前半は天気が数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、向こう 1 か月間の降水量は平年並または多い確率が 40%の予報となっている。さび病菌の感染は、夜露程度の濡れでも起こるとされているが、降雨によって本病の感染が助長されることが予想される。
以上のことより、県下の小麦産地では黄さび病の発生が増加する可能性が高いと考えられる。

4 防除対策と留意点について

- (1) 本病は病徴発現からまん延、枯死までのスピードが非常に早い。重症株は枯死に至るため大幅な減収につながり、過去には収穫皆無となったケースも報告されている。そのため、ほ場内の見回りを行い、発生が確認された場合には表 2 を参考にするなどして速やかに防除する。なお、石灰硫黄合剤は予防散布で有効で、発生がわずかにみられるなど初期の発生で使用する。既に広く発生がみられる場合には病虫害防除所、最寄りの農業改良普及センターに相談する。農薬を使用する際は最新の農薬使用基準を確認して使用する。
- (2) 本病の発生は突発的で年による発生差が大きい。本県における過去の発生確認は平成 6 年である。
- (3) 本病の詳しい発生生態は明らかにされていない。本病菌は高温に弱く、日本での越夏は困難と考えられており、早春、黄砂とともに中国大陸から飛来した夏孢子が発生源になると考えられている。
- (4) 種子、土壌伝染は確認されていない。
- (5) 本年は黄さび病だけでなく、赤さび病の目立つ地域もあるので防除に当たっては注意する。

表1 コムギ黄さび病の地域別発生状況（5月24～26日・病虫害防除所調査）

区分	調査月日	調査 ほ場数	発生程度別調査ほ場数					発生 ほ場率(%)
			甚	多	中	少	無	
東信	5月24日	8	0	0	0	6	2	75.0
中信	5月26日	150	0	1	6	63	80	46.7
北信	5月25日	7	1	0	0	5	1	85.7
計		165	1	1	6	74	83	(平均) 49.7

表2 麦類さび病類に対する防除方法（平成28年長野県農作物病虫害・雑草防除基準より抜粋）

病虫害名	防除時期	防除方法	麦類に対する 使用時期	麦類に対す る使用回数
さび病類	発病直後及 び出穂期	石灰硫黄合剤 50 倍液を発生初期から 10a 当 り 2000、1 週間おきに 2 回以上散布する。	—	—

注1：麦類さび病類に対する石灰硫黄合剤は製造会社により希釈倍数が異なるので確認して使用すること。

注2：2016年5月25日時点の農薬登録内容を JPP-NET で確認。

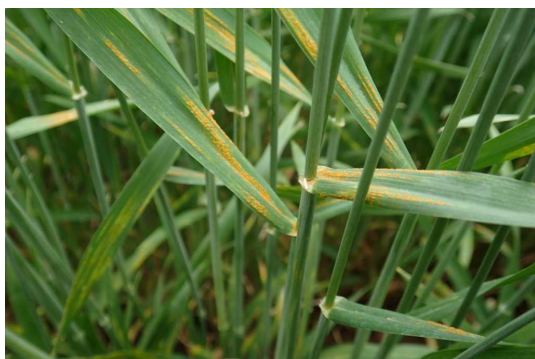


図1 コムギ黄さび病の初期の発生状況
(写真提供：農業試験場環境部)



図2 コムギ黄さび病の夏胞子層
(葉脈に沿って黄色のすじ状)
写真提供：農業試験場環境部



図3 コムギ黄さび病が進展中の状況
(写真提供：農業試験場環境部)



図4 コムギ黄さび病とコムギ赤さび病が混発
している葉。

長野県病虫害防除所
 久保田 純司 (所長) 湯本 純 (担当)
 TEL : 026-248-6471 (直通)
 FAX : 026-248-6473
 E-mail bojo@pref.nagano.lg.jp